（令和元年 10 月試験研究業務月報）

情　報

ミャンマー、ラオスから研究者が来所

10 月 15 日、国際農林水産業研究センターが共同研究しているミャンマーとラオスの水産業の研究者ら６名が二枚貝養殖の知見を得るために来所されました。両国の研究紹介では、来所された研究者から現地で食べられている二枚貝類（カキ類やハマグリ類）や甲殻類（テナガエビ類）の養殖に向けたプレゼンテーションがあり、当センター職員からはアサリ、トリガイおよびイワガキに関する研究事例を紹介しました。

ミャンマーとラオスの研究者は阿蘇海のアサリ稚貝の減耗要因やトリガイの市場価値についての関心が高く、また、当センターもミャンマーのカキ類の産卵生態やテナガエビ類を養殖する場合の課題などを把握することができ、双方にとって貴重な情報交換ができました。

このたび得た東南アジアにおける養殖事情を京都府における養殖業の参考として役立てたいと考えています。

京都の誇る「丹後とり貝」に
目を見張る研究者

ラオスでは珍しい海洋調査船の前で

海 洋 セ ン タ ー